

174 菊酒後朝筵 菊酒後朝の筵

禁中密宴、余毎預之 禁中密宴、余毎に之に預かる

175 器拙承豊澤 器拙くして豊澤を承け

176 舟頑濟巨川 舟頑にして巨川を濟る

177 國家恩未報 國家の恩未だ報いざるに

178 溝壑恐先填 溝壑先ず填まらんことを恐る

179 潘岳非忘宅 潘岳宅を忘るるに非ず

180 張衡豈廢田 張衡豈田を廢せむや。

【十九段】

この十句では、左遷されるに到った状況の分析とそのことに対する心情を吐露する。才あるが為に却って災いに遭う『文選』や『莊子』の故事を踏まえて、自分自身の高位に登ったことが、この今の状況を生んだと悔やむ。またその災いが我が身のみならず家族、菅家一門に苛酷なまでに及び、今まで誠心誠意務めて来たことが却ってあだとなったことを嘆き、憤るその憤怒の念が横溢する内容となっている。

181 風摧同木秀 風に摧けて木の秀づるに同じ

182 燈滅異膏煎 燈滅えて膏の煎らるるに異なり

183 苟可營々止 苟しくも營々として止まるべし

184 胡爲脛々全 胡爲れぞ脛々として全からむ